

みんなで夢を支えましょう

📖 家読で、学校と地域が連携します。

学校には家読の対象になる子どもたちが毎日通ってきます。学校から家庭に家読を啓発する場合、学校だけでなく行政や図書館が連携すれば、効果的に家読を推進することができます。さらに、この連携を基盤にして「読書によるまちづくり」をおこなうことができます。

学校での取り組み例

1. 「うちどくの日」を設け、その日はノーテレビ・ノーゲームを奨励する。
2. 学級や学年で同じ本を順に読んで家読する。【リレーうちどく】
3. 図書室に家読コーナーを設け、保護者に開放する。
4. 家読の調査を行い、保護者や地域に広報する。
5. PTAや地域の図書館、公民館との連携を図る。

図書館での取り組み例

1. 「うちどくおすすめの本リスト」を作成する。
2. 地域の学校や保育園・幼稚園と連携を図る。
3. 家読コーナーを設置する。
4. 「うちどくフェスティバル」等のイベントを計画・実施する。
5. 家読の取り組みを広報する。

行政での取り組み例

1. 自治体の読書活動推進計画の中に「うちどく」を盛り込む。
2. 「市民うちどくの日」や「うちどく強化期間」を設定する。
3. 「うちどく推進啓発パンフレット」を作成し、全戸に配布する。
4. 家読に関する講演会・研修会を計画・実施する。
5. 家読の取り組みを広報する。



📖 家読は、国の基本計画にも取り入れられています。

文部科学省では、第三次子ども読書活動推進基本計画を策定し、その中に家読の取り組み内容や効果を盛り込んでいます。

第三次「子ども読書活動推進基本計画」(平成25年5月17日閣議決定)(抜粋)

第5章 子どもの読書活動の推進のための方策

I 家庭における子どもの読書活動の推進

1. 子どもの読書活動の推進における家庭の役割(一部)

…家庭においては、読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、図書館に向向いたりするなど、工夫して子どもが読書に親しみきっかけを作ることが重要である。また、定期的に読書の時間を設けるなどして家族で読書の習慣付けを図ったり、読書を通じて家族で感じたことや考えたことを話し合ったりするなど、読書に対する興味や関心を引き出すように子どもに働き掛けることが望まれる。なお、家庭における読書活動の取組は家族間のコミュニケーションを深めることにもつながるものである。



全国の家読の情報は、「家読推進プロジェクト公式ホームページ(うちどく.com)」にたくさん掲載されています。ぜひ一度、ご覧になってください。

URL <http://uchidoku.com/> 入力 または [うちどく.com](#) 検索

「家読」は、家庭読書の略語で、「うちどく」と読みます。



うちどく 家読は 子どもの夢を 応援します

● 家読は、新しいスタイルの読書活動です。



● 家読のやり方

- ① 親子(家族)で本を読む
- ② 感じたこと等を話し合う

ころつないで ~read and talk~

作詞:中島 進 作曲:羽柴よしえ



1
おかあさんの ひざのうえ
絵本ひらいて read and talk
おとうさんが 読んでいる
本をいつかは read and talk
ひとつのはなしが ころつをつなぐ
ほくのまわりに かそくの笑顔
read, read and talk
愛を語ろう ともに語ろう
ころつないで read and talk

2
おばあちゃんの しわしわの手
ぬくもり感じて read and talk
おじいちゃんが 教えてくれた
むかしむかしの read and talk
ひとつのはなしが ころつをつなぐ
ほくのまわりに みんなの笑顔
read, read and talk
夢を語ろう ともに語ろう
ころつないで read and talk

3
ほくが生まれた ふるさは
ステキなんだね read and talk
海の向こう どんな国?
もっと知りたい read and talk
ひとつのはなしが 世界をつなぐ
地球(ほし)のまわりに かがやく笑顔
read, read and talk
未来(あす)を語ろう ともに語ろう
ころつないで read and talk

ひとつのはなしが とびらをひらく
君のまわりに つながる笑顔
read, read and talk
ほくと語ろう ともに語ろう
ころつないで read and talk



親子で夢を語りましょう

📖 家読は、親子が話す時間を確保します。

お子様と夢や生き方について話をしていますか？
 毎日の慌ただしい生活の中で、親子が向き合って話をする時間を確保するのは容易ではありません。しかしながら、時間は作らなければ生まれません。
 家読では、一緒に本を読んだ後に話をする時間を確保できます。しかも、本を読んだ後には、話をする心と環境が整っています。夢について、生き方について、親から子へ、子から親へ、ぜひ話をしてみてください。



家庭での取り組み例

1. 家族で話し合って「うちの日の日」を決める。
2. 我が家の家読スタイルを話し合って決める。
3. 家族で話し合って読む本を決める。
4. 我が家の家読の記録を残す。
5. 家庭文庫を作る。

📖 家読は、夢を見つけるお手伝いをします。

「本を読むと心が旅をする。」と言われています。普通の生活の中やテレビから流される情報から夢を見つけるのもいいですが、本を読むとその選択肢は限りなく広がります。お子様と一緒に本を読んで、一緒に夢を見つけてください。

絵本は、以下のような理由から家読に適しているといわれています。
 特に、忙しい毎日の中で家読をしていくためには、絵本は強い味方になってくれます。

- 絵があるので読み語りに適している。
- 絵と文の両面から話ができる。
- 教育的で感動的な内容の作品が多い。
- 15分程度で読み通すことができる。

【全国から寄せられた感想】

- 早速わが家でやってみた。いつもゲームの話しかしない息子に変化が起こり、楽しそうだった。
- 家読をすることで子どもがよく見えてきた。
- 家族とコミュニケーションがとれると、毎日が楽しくなる。
- 家読は家族の回らんづくりと、絆を深める具体的な方法だと思う。
- 本は子どもたちばかりでなく、親の心も安定させるように思う。
- 特に子どもたちと同じ気持ちで笑えた時、「いっしょだね」と言葉にならない感情がわく。
- 家読が日本中に広がれば、問題を起こす子どもも少なくなると思う。



家族で夢に向かいましょう

📖 家読は、家庭の教育力を向上させます。

「平日に2時間以上テレビやゲームをする子は、自分の夢をかなえることはできない。」と言われていました。今や家庭は、電子メディアの浸透で、同じ屋根の下に住んでいても、別々の時間を過ごす事が多くなってきています。家庭の役割が薄れてきているのです。家読をおこなうことにより、以下のような家庭の教育力が向上するといわれています。このことは、お子様が夢に向かって一歩ずつ進んでいくことにもつながります。

● 家族のコミュニケーションの場を確保できます。

家読をおこなうことで、慌ただしい毎日の中にも質の高いコミュニケーションを確保できます。さらに、家族の絆を深め、夢を育てることもつながります。

● テレビの見過ぎ、ゲームのし過ぎに気を配るようになります。

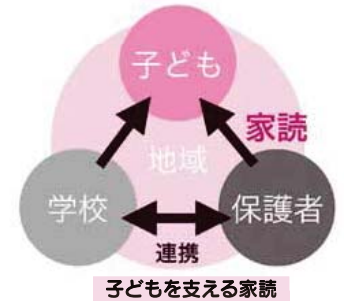
家族で家読をする時には、テレビの音やゲームは必要ありません。テレビを消してゲームをやめて、静かな雰囲気の家読をおこなしましょう。そしてその静かな雰囲気に慣れましょう。そうすれば、きっとテレビの見過ぎやゲームのし過ぎに気づくことでしょ。

● 親が読書する姿を子どもに見せることができます。

絵本には、感動したり深く考えさせられたりするものがたくさんあります。今や絵本は、子どもだけが読むものではありません。一緒に本や絵本を読んで、親が本を読む姿をお子様に見せてください。

● 家庭内の言葉が磨かれます。

親子であっても言葉を交わすためには、言葉を選びます。自分が伝えたいことを、言葉を選びながら伝える。そのことを積み重ねることにより、家庭内の言葉が磨かれていきます。



📖 家読は、人生を前向きに考える子どもを育てます。

国立青少年教育振興機構では、「子どもの頃の読書活動」と「成長してからの意識・能力」についての関係を明らかにするために、全国で成人約5千人、中・高校生約2万人を対象に調査しました。その結果、子どもの頃の読書活動が、成長してからの意識・能力に大きな影響を及ぼしていることがわかりました。

● 子どもの頃の読書は、人生を豊かにします。

- ・ 子どもの頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの「意識・能力」が高いことがわかりました。また、ボランティア活動に参加している人が多い傾向にあります。
- ・ 大人と同様に、子どもの頃(就学前から中学時代)の読書活動が多い中・高校生ほど、現在の「意識・能力」が高いことがわかりました。例えば、小学校に入学する前や低学年時に読書活動が多かった中・高校生は、人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識などの能力が高い傾向があります。

出典:「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」より

